

2022 年度 北海道レフェリーアカデミー第 5 回（通算第 15 回）事業報告

【日 時】 2022 年 9 月 3 日(土)・4 日(日)

【会 場】 東雁来公園サッカー場・SSAP ミーティングルーム・札幌ドーム・(北海高等学校)

【参加者】 Referee：一瀬哲平・岡聖人・濱岡優太(3 日のみ)・山口麗弥

Instructor：古曾部統太郎(RAM)・今川一輔(RAI)・岡田渉(RAI)

【内 容】

[テーマ] 「選手の気持ちを考えて」

<1 日目>

~8:50 集合 @東雁来公園サッカー場

◆ 試合実践

- ・大会名：第 101 回全国高校サッカー選手権大会 札幌地区予選 代表決定戦
- ・Regulation：ノックアウト方式 80 分 HT10 分 延長 20 分 PK

10:00kickoff

① 酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 vs 北海道科学大学高等学校

・主審：山口 以下札幌地区派遣

☆ 試合分析

ゲームマネジメントという観点において、笛で止まっているのにもかかわらず、笛を待たずにボールを蹴られてしまうシーンがいくつかあった。笛を吹いていたとしても、伝わっていなければ意味がない。声をかけるなど、伝える方法を工夫する必要がある。

そもそもファウルの判定をしたあとに再開位置にすばやく駆けつけるようにすることができれば、再開位置の間違いやこういった事態を防げるのだと思う。

☆ INS より

前半 18 分、32 分、後半 29 分、39 分と各プレーが再開された後に対応するのではなく、蹴られる前、投げられる前に察知し、対応して欲しい場面であった。

12:00kickoff

② 北海道札幌東高等学校 vs 北海道石狩南高等学校

・主審：濱岡 副審 1：一瀬 以下札幌地区派遣

☆ 試合分析

幅のある動き、背後の選手を気にすることを意識した。前半の序盤で両チームの特徴を掴むことができたので幅を



取りやすかった。しかし、幅だけを意識しすぎて、PA 内でプレーされている時に 15m 以上離されていることが多すぎた。一番何かあるかもしれない PA 内には早い動きだしで正しい判定をしなければならない。

✧ INS より

幅の取り方や自分の後方にいる競技者の位置や数などを意識したポジショニングに努めていました。このことは濱岡さんの課題の一つでしたが、克服できたことは濱岡さんの努力です。一方、PA 内に差し掛かるシーンでのポジショニングに課題が残りました。

14:00kickoff

③ 東海大学付属札幌高等学校 vs 北海道札幌稲雲高等学校

・主審：岡 副審 1：古曾部 副審 2：一瀬 以下札幌地区派遣

✧ 試合分析

試合を通して選手はフェアプレーでありファウル数は多くなかった。また、両チーム多少の接触ではもろともせずにプレーを続けられる能力があると判断したため、ファウル基準を高めに設定し、危険なプレー以外については結果を見極めることでワンテンポおいて反則の判定を行なった。主審の介入すべき重大なファウルプレーはなかったと考えている。一方で Adv の適用に課題が残った。オフサイドがあったが、攻撃側競技者がプレーを辞めたことにより、GK はボールを保持できるような場面が数回あった。私は副審のフラッグアップがあった際に反射的に笛を吹いてしまい、プレーを止めてしまった。最も、関節 FK で再開するよりもパントキックなどで再開の方が攻撃に有利に働く可能性は高くなる。ここで Adv を適用することが出来ていれば、他の試合展開もあったかもしれない。

✧ INS より

判定基準は概ね一貫していました。ノーマルフットボールコンタクトの見極めがよく、両チームのサッカー観にマッチした基準でした。また、副審を見るタイミングはすごく良いと感じました。首を振る、副審から情報を得ようとするという気付きはこれからも持ち続けてください。開始 5 分の PA 内ノーファールの判定の正しさ、ポジショニング、ジャスチャーで、毅然さ、強さを感じたことが、ゲームコントロールに生きたと思います。

16:00~ @SSAP ミーティングルーム

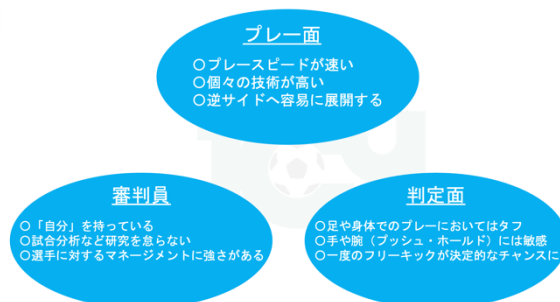
◆ Presentation

・U 18 クラブユース全国大会に RAC より派遣された 2 名の審判員より全国研修の報告

➤ 山口、一瀬が派遣され、それぞれが感じたことや学んだことについて全体に共有を行った。

✓ 他地域の RAC 生について

今回の研修会では 2 名の RAC 生と関わる事ができました。
長崎県の N さんは大学院生で学業が忙しく、研修中もホテルで常に勉強をされていたようです。
広島県の I さんは、大学 4 年生の就活中の忙しい中、研修会へ参加していました。
…お二人とも、年齢が下の私に対して常に敬語で丁寧に接していただき、対等な立場に立ってコミュニケーションをとっていただけたのが印象的でした。まずは、審判員、RAC 生である前にまずは「人」として自分を磨かれなければならないと教えていただきました。



諸連絡/解散

<2日目>

~8:50 集合 (一瀬のみ) @北海高等学校

◆ 試合実践

・大会名：高円宮杯 JFA U18 サッカープリンスリーグ 2022 北海道

10:00kickoff

① 北海高等学校 vs 札幌大谷高等学校

・主審：一瀬 以下 HKFA 強化及び札幌地区より派遣

✧ 試合分析

アドバンテージに関して課題が残った。アドバンテージがもたらす利益とは何かを改めて考えるべきだと感じた。考慮事項である、1.反則の重大さ 2.場所 3.素早く大きなチャンスとなるか。4.雰囲気。これらを整理し、アドバンテージの適合性について高めていきたい。

✧ INS 分析

アドバンテージの適用で積極性は評価できる部分はあるが、的確性という部分では、後半 37 分、49 分と北海が勝っていて、自陣深いエリアでもあったため、FK として再開して上げることがチームの利益だと感じた。



~11:00 集合

◆ ボランティア活動

・JFA UNIQLO Soccer KIDS in 札幌ドーム 審判/運営ボランティア

✧ 感想

今回のこのイベントに運営スタッフとして関わることができたことは、私たち審判員にとって非常に得るものが多かったと感じている。普段から私たちは試合を運営する者として大会に関わっているが、大会開催に向けた会場準備などについては協会スタッフの皆さんの力が必要不可欠であり、試合ができるように会場を作り上げてくださることで私たちは審判を担当することができる。今回で当たり前サッカーが出来る環境を整えてくださっている方々の苦労や気持ちを痛感することができた。

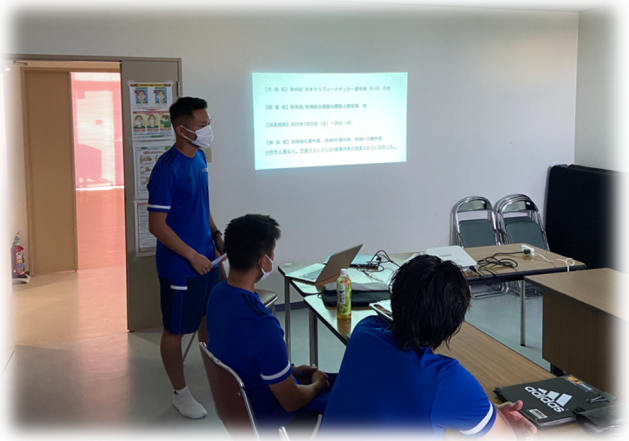
また、RAC 3 期生は全員 HKFA 強化指定審判員としての活動をしており、割り当ても北海道リーグや学生 1 部、プリンスリーグなどレベルの高いカテゴリでの活動が主となり、3 種や 4 種さらにはキッズの種別での活動の機会は少ない。私自身キッズのサッカーに携わった事はなく、初めは非常に戸惑いながら行った。子供達が楽しくボールに触れられるためにはどのようにしたら良いのだろう。ルールの方から知らない子に対してどのように接すればゴールにシュートを決める楽しさを教えてあげられるだろう。試合中泣いてしまう子に対してどのようにすればサッカーを楽しんでもらえるだろう。とたくさんのことを考えながら運営を行った。中には失敗もあったものの、試合終了後に子供たちに「楽しかった？」と聞くと元気よく「うん！」と返事があり、やってよかったと思うことができた。

今回のこの経験を普段の活動に生かすべく、大会に関わる全てのサッカーファミリーに感謝の気持ち

を忘れることなくこれからも審判員として活動させていただきたいと思います。

最後になりますが、改めていつも各種大会が成功するように努めてくださる運営スタッフの皆様へ感謝致します。また、このような機会を提供してくださった（公財）北海道サッカー協会の皆様へ感謝致します。

終了/解散



JFA UNIQLO Soccer KIDS 審判団